

# 病害虫発生予察情報(11月予報)

令和6年10月29日

静岡県病害虫防除所長

## 1 予報概況

作物名	病害虫名	予報 (11月の県平均平年値)	予報の根拠
温州 みかん	ミカンハダニ	発生量：多 (寄生葉率2.2%)	10月中旬発生量：多 (+) 気象予報：気温：高い (+) 降水量：多い (-)
トマト	葉かび病・ すすかび病	発生量：並 (発病株率10.3%)	10月中旬発生量：少 (-) 気象予報：気温：高い (+) 降水量：多い (+)
	黄化葉巻病	発生量：並 (発病株率1.4%)	10月中旬発生量：少 (-) 防除員からの報告：やや少～多(-～+) 気象予報：気温：高い (+)
	コナジラミ類	発生量：多 (寄生株率13.3%)	10月中旬発生量：多 (+) 気象予報：気温：高い (+)
	ハスモンヨトウ	発生量：多 (寄生株率0.1%)	10月中旬発生量：多 (+) フェロントラップ誘殺数：少～多(-～+) 防除員からの報告：やや多 (+) 気象予報：気温：高い (+)
だいこん	黒斑細菌病	発生量：やや多 (発病株率0.4%)	10月下旬発生量：並(発生なし) (±) 気象予報：気温：高い (+) 降水量：多い (+)
	白さび病	発生量：並 (発病株率0.1%)	10月下旬発生量：並(発生なし) (±) 気象予報：気温：高い (-) 降水量：多い (+)
	モザイク病 (アブラムシ類)	モザイク病発生量：並 (発病株率0.4%) アブラムシ類発生量：少 (寄生株率0.9%)	10月下旬発生量 モザイク病：並(発生なし) (±) アブラムシ類：少(発生なし) (-) 気象予報：気温：高い (+) 降水量：多い (-)
	コナガ	発生量：やや少 (寄生株率0.2%)	10月下旬発生量：少(発生なし) (-) フェロントラップ誘殺数：並 (±) 気象予報：気温：高い (+) 降水量：多い (±)
	ナモグリバエ	発生量：やや少 (寄生株率3.7%)	10月下旬発生量：少 (-) 気象予報：気温：高い (+) 降水量：多い (±)
	ヨトウムシ類	発生量：多 (寄生株率3.7%)	10月下旬発生量：多 (+) フェロントラップ誘殺数(ハスモンヨトウ) ：少～多(-～+) 気象予報：気温：高い (+) 降水量：多い (±)

作物名	病害虫名	予報 (11月の県平均平年値)	予報の根拠
キャベツ	黒腐病	発生量：やや少 (発病株率1.9%)	10月下旬発生量：少(発生なし) (-) 気象予報：気温：高い (+) 降水量：多い (+)
	菌核病	発生量：やや少 (発病株率0.2%)	10月下旬発生量：少(発生なし) (-) 気象予報：気温：高い (+) 降水量：多い (+)
	コナガ	発生量：多 (寄生株率0.1%)	10月下旬発生量：多 (+) 気象予報：気温：高い (+) 降水量：多い (±)
	オオタバコガ	発生量：多 (寄生株率0.2%)	10月下旬発生量：多 (+) 気象予報：気温：高い (+) 降水量：多い (±)
	ハスモンヨトウ	発生量：多 (寄生株率0.02%)	10月下旬発生量：多 (+) 気象予報：気温：高い (+) 降水量：多い (±)
	アブラムシ類	発生量：やや少 (寄生株率0.7%)	10月下旬発生量：少(発生なし) (-) 気象予報：気温：高い (+) 降水量：多い (-)
ねぎ (白ねぎ)	さび病	発生量：やや少 (発病株率1.3%)	10月中旬発生量：少(発生なし) (-) 気象予報：気温：高い (+) 降水量：多い (+)
	黒斑病・葉枯病	発生量：やや少 (発病株率3.3%)	10月中旬発生量：少 (-) 気象予報：気温：高い (±) 降水量：多い (+)
	シロイチモジ ヨトウ	発生量：多 (寄生株率0.2%)	10月中旬発生量：多 (+) トラップ誘殺数：少～多 (-～+) 気象予報：気温：高い (+) 降水量：多い (±)
	ネギアザミウマ	発生量：並 (寄生株率12.8%)	10月中旬発生量：並 (±) 気象予報：気温：高い (+) 降水量：多い (-)
	ネギハモグリ バエ	発生量：やや多 (被害株率23.5%)	10月中旬発生量：並 (±) 気象予報：気温：高い (+) 降水量：多い (±)
レタス (非結球レタス を除く)	斑点細菌病	発生量：並 (発病株率0.1%)	10月中下旬発生量：並(発生なし) (±) 気象予報：気温：高い (-) 降水量：多い (+)
	べと病	発生量：並 (発病株率0.2%)	10月中下旬発生量：並(発生なし) (±) 気象予報：気温：高い (-) 降水量：多い (+)
	ハスモンヨトウ	発生量：多 (寄生株率0.1%)	10月中下旬発生量：多 (+) フェロモントラップ誘殺数：少～多 (-～+) 防除員からの報告：やや多～多 (+) 気象予報：気温：高い (+) 降水量：多い (±)

作物名	病害虫名	予報 (11月の県平均平年値)	予報の根拠
いちご	うどんこ病	発生量：少 (発病株率 1.2%)	10月発生量：少(発生なし) (-) 気象予報：気温：高い (-)
	炭疽病	発生量：並 (発病株率 1.4%)	10月発生量：少 (-) 気象予報：気温：高い (+)
	アブラムシ類	発生量：多 (寄生株率 4.7%)	10月発生量：やや多 (+) ただし、一部ほ場で多 気象予報：気温：高い (+)
	ハダニ類	発生量：やや多 (寄生株率 16.0%)	10月発生量：並 (±) ただし、一部ほ場で多 気象予報：気温：高い (+)
	ハスモンヨトウ	発生量：多 (寄生株率 0.3%)	10月発生量：多 (+) フェロモントラップ誘殺数：少～多 (-～+) 防除員からの報告：やや多～多 (+) 気象予報：気温：高い (+)
作物全般	オオタバコガ	発生量：多	フェロモントラップ誘殺数：多 (+) 気象予報：気温：高い (+) 降水量：多い (±)

#### 表の見方について

- ・ 予報の発生量は平年(静岡県の過去10年間)との比較で、「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、平年(静岡県の過去10年間)との比較で、「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠には、巡回調査に基づく発生状況(調査時期と発生量)、気象庁の1ヶ月予報(気温と降水量)を記入しています。その状況が多発要因の場合は(+)、少発要因の場合は(-)を示し、+-を総合的に判断して発生時期、発生量を予想しています。

農薬情報  
はこちら  
で検索!



静岡県農薬安全使用指針  
・農作物病害虫防除基準

<https://www.s-boujo.jp/>

静岡県病害虫防除所 HP  
が新しくな  
りました。



静岡県病害虫防除所 HP

[https://www.pref.shizuoka.jp/sangyos\\_higoto/norinjimusho/1058658/boujo/index.html](https://www.pref.shizuoka.jp/sangyos_higoto/norinjimusho/1058658/boujo/index.html)

## 2 予報の根拠と防除対策

### 【温州みかん】

#### ＜生育の概況＞

生育は平年並～数日早く、果実の肥大は平年並の産地が多い。

#### ●ミカンハダニ

##### 予報の根拠

- ・10月中旬の巡回調査では、平均寄生葉率は3.6%（平年1.4%）と平年より多かった。地域別では、東部地域で寄生が認められず（平年0.8%）、中部地域で1.0%（平年2.6%）、西部地域で9.7%（平年1.5%）と西部地域での発生が多かった。
- ・1か月予報によると、降水量は平年より多いが、気温は平年より高いため、本種の発生をやや助長する。
- ・カメムシの防除により、カブリダニ類等の天敵類が抑制され、ミカンハダニの発生が助長される可能性がある。

##### 防除対策

- ・着色期以降に発生すると果実が着色不良となり商品価値が低下するため、発生がみられた場合は収穫前日数に注意して薬剤防除を行う。

#### ＜その他の病害虫＞

#### ●黒点病

- ・10月中旬の巡回調査では、果実の平均発病度は11.0（平年1.4）と平年より多かった。
- ・近年、本県では多発傾向にある。
- ・樹冠内部の枯れ枝や園の内外に放置された剪定枝、切株などで本病の胞子が作られ、伝染源となる。このため、枯れ枝の切除を徹底し、耕種的防除を適切に実施する。

#### ●青かび・緑かび病

- ・10月中旬の巡回調査では、平均樹上発病果数は0.03個/樹（平年0.3個/樹）と平年より少なかった。落果発病果数は0.5個/樹（平年0.9個/樹）と平年より少なかった。
- ・樹上発病果や発病した摘果果実は、園内の菌密度を高めるため、園外に持ち出して処分する。
- ・本病は果実表面の傷から病原菌が侵入するため、果実に傷がつかないように注意して収穫作業を行う。防除を行う場合は、収穫前日数に注意して薬剤の選択をする。
- ・果実が過熟にならないよう適期に収穫し、雨の日や雨の翌日など果実に水滴が残っているようなときには収穫を避ける。

#### ●褐色腐敗病

- ・10月中旬の巡回調査では、平均樹上発病果数は0.07個/樹（平年値なし、昨年0.1個/樹）、落果発病果数は2.1個/樹（平年値なし、昨年0.4個/樹）であった。
- ・本病原菌は土壤中に生息しており、降雨による泥はねなどで樹上の発病が増加する。
- ・樹上発病果や落果発病果は、園内の菌密度を高めるため、園外に持ち出して処分する。

## 【かんきつ全般】

### <その他の病害虫>

#### ●かいよう病

- ・10月中旬の温州みかんの巡回調査では、果実の平均発病度は0.38（平年0.04）と平年より多かった。
- ・10月中旬の中晩柑類の巡回調査では、果実の平均発病度は1.7（平年0.5）と平年より多かった。
- ・11月以降に感染は起こらないが、冬期に発病枝葉の切除、防風垣・防風ネットの整備を徹底し、翌春の新梢への感染拡大を防ぐ。

## 【茶】

### <その他の病害虫>

#### ●チャハマキ・チャノコカクモンハマキ

- ・予察灯及びフェロモントラップにおける成虫誘殺数は、10月下旬時点で第5世代の発生が認められ、平年よりも多く推移している。
- ・被害が見られた茶園では、整枝後に早めに防除を行う。

#### ●ナガチャコガネ

- ・被害のみられたほ場では、幼虫は10月下旬～11月下旬にかけて地表近くに上がってくる。うね間から雨落ち部を掘り、幼虫が地表から20cmまでの深さに見られたら、薬剤の土壌かん注を実施する。

## 【トマト】

### <生育の概況>

生育はやや早い～遅く、地域や生産者によりばらつきがある。

#### ●葉かび病・すすかび病

##### 予報の根拠

- ・10月中旬の巡回調査では、平均発病株率は2.4%（平年11.6%）と平年より少なかった。
- ・1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より多いため、本病の発生を助長する（生育適温は、葉かび病20～25℃、すすかび病26～28℃程度で、どちらも多湿条件で発病が多くなる）。

##### 防除対策

- ・本病は潜伏期間が2週間程度と長く、多発してからでは薬剤の効果が劣るため、発病が認められたら直ちに薬剤を散布する。ただし、耐性菌の発生を防ぐため、散布薬剤をローテーションする。
- ・多湿にならないように換気につとめ、過度のかん水を避ける。
- ・発病葉は感染源となるため速やかに摘み取って、ほ場外に撤去する。
- ・本県では、定植後から11月頃まではすすかび病が多く、次第に葉かび病が優占する傾向が見られる。

## ●黄化葉巻病

### 予報の根拠

- ・10月中旬の巡回調査では、平均発病株率は0.2%（平年1.0%）と平年より少なかった。
- ・病害虫防除員からは、4名中2名から本虫の発生が「やや多い」もしくは「多い」との報告があった。
- ・1か月予報では、気温は平年より高いため、本病を媒介するタバココナジラミの増殖を助長する。このため、本病の発生も助長される。

### 防除対策

- ・本病はタバココナジラミによって媒介されるため、タバココナジラミの防除を徹底する。防除対策については、コナジラミ類の項を参照すること。
- ・発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り、ハウス外の土中に埋めるか、ビニール袋に入れて腐らせる等して適切に処分する。
- ・脇芽や摘果などの残さは放置すると野良生えとなり、媒介虫や本病の伝染源となるので、ほ場付近には放置しない。

## ●コナジラミ類

### 予報の根拠

- ・10月中旬の巡回調査では、平均寄生株率は17.0%（平年11.6%）と平年より多かった。
- ・1か月予報では、気温は平年より高いため増殖を助長する。

### 防除対策

- ・施設開口部に防虫ネット（目合い0.4mm以下）を設置し、侵入を抑制する。
- ・成虫の寄生や黄色粘着板の捕獲数に注意し、発生が確認された場合は薬剤防除を実施する。

## ●ハスモンヨトウ

### 予報の根拠

- ・10月中旬の巡回調査では、平均寄生株率は1.5%（平年0.2%）と平年より多かった。
- ・フェロモントラップ調査における9月21日～10月20日の合計誘殺数は、静岡市においては平年より多く、磐田市及び御前崎市においては平年並～少なく推移している。
- ・1か月予報では、気温は平年より高いため、本種の発生を助長する。

### 防除対策

- ・例年、11月末まで幼虫が発生するので、ほ場での発生に注意し、防除効果の高い若齢幼虫期の防除に努める。
- ・発生状況及び防除対策については、[「技術情報第3号（作物全般 ハスモンヨトウ）」](#)も参照すること。

## 【だいこん】

### ＜生育の概況＞

高温の影響により、生育は平年並～やや遅い。

### ●黒斑細菌病

#### 予報の根拠

- ・10月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年発生なし）。
- ・1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より多いため、本病の発生を助長する（本病の発病適温は25～30℃、降雨は本病の発生を助長する）。

#### 防除対策

- ・病原細菌は、暴風雨等による傷口から侵入するので、暴風雨前または直後に防除を行う。
- ・降雨が続くときや初発生を確認した場合、速やかに薬剤防除を実施する。
- ・生育の衰えは本病の発生を助長するため、肥料切れと排水に注意し、適切な管理に努める。
- ・葉柄基部から侵入した場合は、根部に影響を与え商品価値を落とすこともあるため特に注意する。

### ●白さび病

#### 予報の根拠

- ・10月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年発生なし）。
- ・1か月予報では、降水量は平年より多いが、気温は平年より高いため、本病の発生を特には助長しない（本病の分生子は発芽最適温度が10℃と低温を好む。また多雨により発生が助長される）。

#### 防除対策

- ・白さび病が多発するとワッカ症を併発することがある。ワッカ症を防ぐには、葉での発病が少ないうちに薬剤散布を行うことが必要である。
- ・発病残渣は翌年の伝染源となるため、ビニール袋に入れて腐らせるなどして適切に処分する。

### ●モザイク病（アブラムシ類）

#### 予報の根拠

- ・10月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年発生なし）。
- ・本病の媒介虫であるアブラムシ類の寄生は確認されなかった（平年0.4%）。
- ・1か月予報では、降水量は平年より多いが、気温は平年より高いため、アブラムシ類の発生をやや助長する。このため、本病の発生もやや助長されると考えられる。

#### 防除対策

- ・雨が降らない日が続くとアブラムシ類が急増する場合があるので、ほ場内の発生に注意し、確認された場合は薬剤防除を実施する。
- ・発病株は伝染源となるため速やかに抜き取り、ビニール袋に入れて腐らせるなどして適切に処分する。

## ●コナガ

### 予報の根拠

- ・10月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年寄生株率0.1%）。
- ・フェロモントラップによる9月16日～10月20日までの誘殺数は、平年並みに推移している。
- ・1か月予報では、降水量は平年より多いが、気温は平年より高いため、本種の発生をやや助長する。

### 防除対策

- ・ほ場内の発生に注意し、確認された場合は薬剤防除を実施する。

## ●ナモグリバエ

### 予報の根拠

- ・10月下旬の巡回調査では、寄生は確認されなかった（平年2.0%）。
- ・1か月予報では、降水量は平年より多いが、気温は平年より高いため、本種の発生をやや助長する。

### 防除対策

- ・葉表の白点（産卵痕）や絵描き状の食害痕が多数見られる場合は、防除を実施する。

## ●ヨトウムシ類

### 予報の根拠

- ・10月下旬の巡回調査では、平均寄生株率は8.0%（平年0.5%）と平年より多かった。
- ・ハスモンヨトウのフェロモントラップ調査における9月21日～10月20日の合計誘殺数は、静岡市においては平年より多く、磐田市及び御前崎市においては平年並～少なく推移している。
- ・1か月予報では、降水量は平年より多いが、気温は平年より高いため、本種の発生を助長する。

### 防除対策

- ・例年、11月末まで幼虫が発生するので、ほ場での発生に注意し、防除効果の高い若齢幼虫期の防除に努める。
- ・ハスモンヨトウの発生状況及び防除対策については、[「技術情報第3号（作物全般 ハスモンヨトウ）」](#)も参照すること。

## 【キャベツ】

### <生育の概況>

生育は平年並～遅れている。

## ●黒腐病

### 予報の根拠

- ・10月下旬の巡回調査では、発生は認められなかった（平年発病株率2.1%）。
- ・1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より多いため、本病の発生を助長する。

### 防除対策

- ・本病は細菌病で、発病後防除を実施しても進展が止まりにくいことから、予防散布に努める。特に強風雨の前後に薬剤散布を実施すると防除効果が高い。
- ・被害残さは感染源となるため、ほ場外で土中に埋めるなどして適切に処分する。

## ●菌核病

### 予報の根拠

- ・10月下旬の巡回調査では、発生は認められなかった（平常発病株率0.02%）。本病は例年生育後半に被害が増加する（12月の平常発病株率0.4%）。
- ・本病は、降雨があり、20℃前後の気温が続くと発生しやすい。1か月予報では、気温は平常より高く、降水量は平常より多いため、本病の発生を助長する。

### 防除対策

- ・例年発病がみられるほ場では予防的に薬剤防除を行うとともに、被害茎葉は感染源となるため速やかに摘み取り、ほ場外で土中深く（地下50cm以上）に埋めるなど適切に処分する。黒腐病と異なり、浅く埋めただけでは病原菌は死滅しない。

## ●コナガ

### 予報の根拠

- ・10月下旬の巡回調査では、平均寄生株率0.4%（平常0.1%）と平常より多かった。
- ・1か月予報では、降水量は平常より多いが、気温は平常より高いため、本種の発生を助長する。

### 防除対策

- ・結球前の新芽が加害されると芯止まりや品質の低下を招くので、結球前に防除を行う。
- ・薬剤に対する抵抗性が発達しやすいため、同系統剤の連用を避けローテーション散布を心がける。特にピレスロイド系およびジアミド系殺虫剤は薬剤感受性が低下している可能性があるため薬剤の選定には十分注意する。

## ●オオタバコガ

### 予報の根拠

- ・10月下旬の巡回調査では、平均寄生株率2.7%（平常0.6%）と平常よりも多かった。
- ・トラップ調査の情報などは、【作物全般】のオオタバコガの項を参照する。
- ・1か月予報では、降水量は平常より多いが、気温は平常より高いため、本種の発生を助長する。

### 防除対策

- ・幼虫が結球部を加害するため、結球内に侵入後では薬剤の効果が上がりにくい。例年、発生が見られるほ場では、早めに定期的な防除を行なう。
- ・薬剤に対する抵抗性の発達を防ぐために、同一系統の薬剤を連用しないようにする。

## ●ハスモンヨトウ

### 予報の根拠

- ・10月下旬の巡回調査では、平均寄生株率1.6%（平常0.5%）と平常よりも多かった。
- ・1か月予報では、降水量は平常より多いが、気温は平常より高いため、本種の発生を助長する。

### 防除対策

- ・発生が見られたほ場では、薬剤の効果が高い若齢幼虫のうちに防除する。若齢幼虫は葉裏を加害するため、葉裏にも十分薬液がかかるように散布する。
- ・発生状況及び防除対策については、[「技術情報第3号（作物全般 ハスモンヨトウ）」](#)も参照すること。

## ●アブラムシ類

### 予報の根拠

- ・10月下旬の巡回調査では、発生は認められなかった（平年寄生株率0.9%）。
- ・1か月予報では、降水量は平年より多いが、気温は平年より高いため、本種の発生をやや助長する。

### 防除対策

- ・本虫は風通しの悪い場所に多く発生することから、例年発生が認められるほ場では発生に注意し、早期に薬剤防除を実施する。
- ・下葉の葉裏に寄生が多いので、寄生部位に薬液が届くように丁寧に散布する。

## 【ねぎ（白ねぎ）】

### <生育の概況>

夏期の高温の影響で、生育が遅れている地域がある。

## ●さび病

### 予報の根拠

- ・10月中旬の巡回調査では、発生は認められなかった（平年発病株率0.1%）。本病は、例年11月以降発生が増加する（11月の平年発病株率1.3%）。
- ・本病は多湿を好み、発病適温は15～20℃である。1か月予報では、気温は平年より高いが、降水量は平年より多いため、本病の発生を助長する。

### 防除対策

- ・肥料の過不足は発病を助長するので、施肥を適正に行う。
- ・発病が見られたたほ場では早期に薬剤防除を行う。また、被害茎葉は感染源となるため速やかに摘み取りほ場外で土中に埋めるなどして適切に処分する。

## ●黒斑病・葉枯病

### 予報の根拠

- ・10月中旬の巡回調査では、上位3葉の平均発病株率は1.0%（平年3.6%）と平年より少なかった。
- ・黒斑病は多湿を好み、分生子の発芽適温は24～27℃である。また、葉枯病の多発気温は15～20℃である。  
1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より多いため、本病の発生を助長する。

### 防除対策

- ・肥料の過不足は発病を助長するので、施肥を適正に行う。
- ・曇雨天が続く場合には発病する前に予防散布を実施する。

## ●シロイチモジヨトウ

### 予報の根拠

- ・10月中旬の巡回調査では、平均寄生株率2.8%（平年1.2%）と平年より多かった。
- ・10月中旬の農林技術研究所（磐田市）における予察灯の誘殺数は平年より少なく、フェロモントラップの誘殺数は平年より多く推移している。
- ・1か月予報では、降水量は平年より多いが、気温は平年より高いため、本種の発生を助長する。

### 防除対策

- ・例年11月には発生が減少する。但し、卵塊（数粒～数十粒の卵の塊で灰白色の毛に覆われている）や若齢幼虫を見つけた場合は、早急に除去する。被害が続くようであれば、早めに薬剤防除を実施する。

## ●ネギアザミウマ

### 予報の根拠

- ・10月中旬の巡回調査では、平均寄生株率は12.2%（平年12.8%）と平年並だった。
- ・1か月予報では、気温は平年より高いが、降水量は平年より多いため、本種の発生をあまり助長しない。

### 防除対策

- ・多発した場合は薬剤防除を実施する。

## ●ネギハモグリバエ

### 予報の根拠

- ・10月中旬の巡回調査では、平均被害株率は39.4%（平年44.5%）と平年並だった。
- ・1か月予報では、降水量は平年より多いが、気温は平年より高いため、本種の発生をやや助長する。

### 防除対策

- ・例年、気温の低下に伴って11月には発生が減少するが、食害により葉が真っ白くなる被害が認められた多発ほ場では、複数回にわたり薬剤防除を実施する。

## 【レタス（非結球レタスを除く）】

### <生育の概況>

生育は平年並～やや早い。

## ●斑点細菌病

### 予報の根拠

- ・10月中下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年発生なし）。
- ・1か月予報では、降水量は平年より多いが、気温は平年より高いため、本病の発生を特には助長しない（本病は比較的低温で、多湿の条件を好む）。

### 防除対策

- ・病原細菌は、暴風雨等による傷口から侵入するので、暴風雨前または直後に速やかに防除を行う。
- ・降雨が続くときや初発生を確認した場合、速やかに薬剤防除を実施する。
- ・本病は主に結球期以降に発生するが、結球前も葉面の病原細菌数を減らしておく必要があるため、結球期に入る前に薬剤の予防散布をすることが大切である。

## ●べと病

### 予報の根拠

- ・10月中下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年発生なし）。
- ・1か月予報では、降水量は平年より多いが、気温は平年より高いため、本病の発生を特には助長しない（多湿は本病の発生を助長する。また、病原菌の生育適温は10～15℃で比較的低温を好む）。

### 防除対策

- ・予防散布に努める。初発生を確認した場合は、速やかに薬剤防除を実施する。
- ・罹病残さはほ場外に処分する。

## ●ハスモンヨトウ

### 予報の根拠

- ・10月中下旬の巡回調査では、平均寄生株率は5.2%（平年0.02%）と平年より多かった。
- ・フェロモントラップ調査における9月21日～10月20日の合計誘殺数は、静岡市においては平年より多く、磐田市及び御前崎市においては平年並～少なく推移している。
- ・病害虫防除員からは、2名中1名から本虫の発生が「多い」、1名から「やや多い」との報告があった。
- ・1か月予報では、降水量は平年より多いが、気温は平年より高いため、本種の発生を助長する。

### 防除対策

- ・例年、11月末まで幼虫が発生するので、ほ場での発生に注意し、防除効果の高い若齢幼虫期の防除に努める。
- ・発生状況及び防除対策については、[「技術情報第3号（作物全般 ハスモンヨトウ）」](#)も参照すること。

## 【いちご】

### <生育の概況>

花芽の分化は平年より遅れている地域が多い。

## ●うどんこ病

### 予報の根拠

- ・10月の巡回調査では、発生は認められなかった（平年発病株率1.4%）。
- ・1か月予報では、気温は平年より高いため本病の発生を助長しない。

### 防除対策

- ・胞子の発芽適温は20℃前後であり、気温の低下に伴い発生が増加しやすい。
- ・多発生すると防除が困難になりやすいため、発病が少しでも見られた場合は早急に防除する。特に育苗期に発生がみられたほ場では、予防散布による防除を徹底する。

## ●炭疽病

### 予報の根拠

- ・10月の巡回調査では、平均発病株率は1.2%（平年1.9%）と平年より少なかった。
- ・1か月予報では、気温は平年より高いため、本病の発生を助長する。

### 防除対策

- ・本病の生育適温は28℃前後であり、高温・多湿条件下で多発生しやすい。
- ・開花～着果期頃、株に負担がかかると潜在感染株では萎凋症状が急速に進展する場合がある。
- ・発病株から周囲へと伝染するため、ほ場の見回りを徹底し発病株や、発病が疑われる株の早期発見に努める。発病株は培土ごと除き、ビニール袋に入れてほ場外へ出し、殺菌処理後に残さを処分する。
- ・本病原菌は水滴の飛散によって伝染するため、株元かん水など水の跳ね返りを防ぐ形でかん水を行う。また、薬剤散布も同様の伝染条件を作り出す可能性があるため、殺虫剤のみの散布は注意して行う。
- ・定期的な予防散布による防除を実施する。作用機構コード（FRAC）が「M」で始まる保護殺菌剤を中心としたローテーション散布を行い、感受性低下の疑われる薬剤（MBC殺菌剤（FRAC:1）、DMI殺菌剤（FRAC:3）、Qoi殺菌剤（FRAC:11））の散布は行わない。作用機構コード（FRAC）については[静岡県病害虫防除基準（URL: https://www.s-boujo.jp）](https://www.s-boujo.jp)等を参照する。

## ●アブラムシ類

### 予報の根拠

- ・10月の巡回調査では、平均寄生株率は5.2%（平年4.1%）と平年よりやや多く、一部ほ場では多発していた。
- ・1か月予報では、気温は平年より高いため、本種の発生を助長する。

### 防除対策

- ・ビニール被覆後は増殖に好適な条件となるので、発生に注意し初期防除に努める。
- ・天敵を利用するほ場では、天敵に対して影響の小さい薬剤を選択して防除する。

## ●ハダニ類

### 予報の根拠

- ・10月の巡回調査では、平均寄生株率は13.3%（平年12.9%）と平年並であったが、一部ほ場で多発していた。
- ・1か月予報では、気温は平年より高いため、本種の発生を助長する。

### 防除対策

- ・寄生が認められた場合は、少発生のうちに防除する。
- ・天敵製剤を利用する場合は、事前に防除を徹底し、ハダニ類が低密度に維持された条件下で放飼する。

## ●ハスモンヨトウ

### 予報の根拠

- ・10月の巡回調査では、平均寄生株率は2.3%（平年0.6%）と平年より多かった。ただし、地域別では、東部地域で0.2%（平年0.2%）、中部地域で6.0%（平年0.9%）、中遠地域で0.7%（平年0.6%）と中部地域での発生が多かった。
- ・フェロモントラップ調査における9月21日～10月20日の合計誘殺数は、静岡市においては平年より多く、磐田市及び御前崎市においては平年並～少なく推移している。
- ・いちご病害虫防除員からの報告によると、6名中5名が本種の発生が「多い」または「やや多い」と回答した。
- ・1か月予報では、気温は平年より高いため、本種の発生を助長する。

### 防除対策

- ・気温の低下に伴い施設内への成虫の侵入は少なくなるが、発生を認めた場合は若齢幼虫のうちに防除する。
- ・発生状況及び防除対策については、[「技術情報第3号（作物全般 ハスモンヨトウ）」](#)も参照すること。

## 【作物全般】

## ●オオタバコガ

### 予報の根拠

- ・フェロモントラップ調査における9月21日～10月20日の合計誘殺数は、浜松市中央区協和町、伊左地町および磐田市のいずれも平年より多く推移している。
- ・1か月予報では、降水量は平年より多いが、気温は平年より高いため、本種の発生をやや助長する。

### 防除対策

- ・例年、11月中は成虫が発生するため、施設では開口部に防虫ネットを設置し、侵入を抑制する。
- ・本種は幼虫の成長に伴い、植物体へ食入するため、薬剤の防除効果が低下する。そのため、ほ場を観察し早期発見および初期防除に努める。

### 3 季節予報

● 1か月予報 (東海地方 令和6年10月24日 名古屋地方気象台発表)

【予報期間】 10月26日から11月25日

【予想される向こう1か月の天候】

特に注意を要する事項		向こう1か月程度は気温の高い状態が続き、期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。
向こう1か月	天候	平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率80%です。
	降水量	降水量は、多い確率60%です。
	日照時間	日照時間は、少ない確率50%です。
1週目	気温	1週目は、高い確率80%です。
2週目	気温	2週目は、高い確率70%です。
3～4週目	気温	3～4週目は、高い確率60%です。

【確率】

期間	要素	低・少	平年並	高・多%
1か月	気温	10	10	80
1か月	降水量	10	30	60
1か月	日照時間	50	40	10
1週目	気温	10	10	80
2週目	気温	10	20	70
3～4週目	気温	10	30	60

【予報の対象期間】

1か月	: 10月26日(土)～11月25日(月)
1週目	: 10月26日(土)～11月1日(金)
2週目	: 11月2日(土)～11月8日(金)
3～4週目	: 11月9日(土)～11月22日(金)

※ 利用上の注意

- ・気温・降水量は「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1991～2020年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります。(気候的出現率と呼びます)。
- ・晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

お問い合わせは

静岡県病害虫防除所 〒438-0803 磐田市富丘678-1

TEL 0538-36-1543 FAX 0538-33-0780

URL <https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/norinjimusho/1058658/boujo/index.html>